

## 2006年度観光研究所活動報告

### ▼公開講座

- ・「旅行業講座」(計46講座)
  - 2006年 4月22日(土)～7月15日(土)
  - 修了証書授与式…7月15日(土)
  - 受講生…84名(立教生74名、他大学生2名、社会人8名)
  - 講座修了生…80名
  - 受講生の国家試験合格率
    - 総合旅行業務取扱管理者試験 31%(全国平均21%)
    - 国内旅行業務取扱管理者試験 54%(全国平均33%)
- ・「ホスピタリティ・マネジメント講座」(計34講座)
  - 2006年9月21日(木)～12月21日(木)
  - 修了証書授与式…2007年3月3日(土)
  - 受講生…77名(立教生18名、他大学生16名、社会人43名)
  - 講座修了生…53名
- 講座中の行事—
  - ・「受講生意見交換会」
    - 2006年10月14日(土) (社会人21名、学生4名参加)
    - テーマ:「講座の感想」「社会人として大切なことは?」「今後していきたいこと」(学生)
  - ・「ホテル見学会」
    - 2006年10月18日(水) ホテルオークラ東京へ30名参加

### ▼公開講演会

- ・「旅行業の現状と今後のあり方」
  - 2006年7月15日(土) 100名聴講
  - 講師 新倉 武一氏(財団法人日本交通公社 会長)

### ▼受託研究

- ①「冷蔵庫在庫管理モニター調査」
  - 委託先 東京瓦斯株式会社
- ②「ホテルにおける高齢者・障害者へのサポートサービスに関する研究」
  - 委託先 社団法人 日本ホテル協会
- ③「北アフリカの観光産業調査」
  - 委託先 財団法人 中東協力センター
- ④「平成18年観光レクリエーション客動態調査」
  - 委託先 財団法人 岩手県観光協会
- ⑤「豊島区都市型観光ブランド開発調査」
  - 委託先 目白商業協同組合

### ▼ニュースレター発行

- ・「観光研究所だより」
  - Vol.3 No.1 (2006年6月30日発行)
  - Vol.3 No.2 (2007年3月30日発行)



講座の授業風景

## 所長の海外体験記 その4 中国・北京「アジア太平洋観光学会」を訪ねて 立教大学観光研究所所長 小沢 健市

5月23日から27日まで、中国の北京でアジア太平洋観光学会(Asia Pacific Tourism Association以下APTAという)のカンファレンスが350人の出席者のもと開催された。筆者は、APTAに出席するために5月24日(木)に成田を發った。筆者にとって中国訪問は初めてのことであり、それゆえ北京へ行くことも初めてであった。宿泊したホテルからAPTAの会場となっているホテルまで十数キロもあり、北京市の広さに驚いた。「広い」これが北京の第一印象であった。

今回の学会参加で筆者が興味をもった研究発表は数件あったが、特に興味を引いたのは「クラブの経済理論」をゴルフ・クラブの最適規模(最適会員数)の決定問題に適用しようとした研究であった。

詳細に述べるための紙幅はないが(ミクロ経済学の書物等を参照)、クラブ財とは、消費における非競争性と排他性という2つの性質を持つような財・サービスであり、ゴルフ・クラブは正にそれらの性質をもつサービスとして位置づけられる。ある

特定のゴルフ・クラブは会員でなければゴルフをすることはできず(これが排他性である)プレイする際に混雑現象が生じ、すべての会員がプレイしたいときにプレイできないといった状況(プレイの競争性の発生)を回避するために、クラブは会員数をどの程度の規模にしたらいかを決定しなければならない。プレイの競争性が生ずるような会員数であれば、そのようなクラブの会員になるとうるゴルフ愛好家はなくなってしまい、早晚クラブの経営は行き詰るであろう。したがって、クラブの最適な規模、換言すればクラブの利潤を最大化する会員数を決定することはクラブ経営者にとっては重大な問題となる。

以上がクラブ財の性質とそれとともなって生ずる問題であるが、上に述べた研究発表は残念ながら(筆者にとって)、クラブ財理論の説明のみに終始し特定のゴルフ・クラブを事例とした当該クラブの最適会員数がどの程度の規模になるかといった実証研究ではなかった。しかし、筆者が忘れていた「クラブの経済理論」が観光にかかわりを持つ企業や産業を分析し、実証するための基礎を提供してくれるという思いを出させてくれたことは大きな収穫であった。来年(2008年)のAPTAはタイのバンコクで6月中旬に開催される予定である。来年はオーディエンスとしてではなく、筆者自身、発表者としてAPTAに出席したいと考えている。

# 観光研究所だより

Vol.4 No.1

Summer 2007

## CONTENTS

JR東日本のホテル事業について聞く ..... 1  
 新井 良亮( JR東日本 常務取締役 )

Retrospect ! ..... 4  
 満野 順一郎( 社団法人 日本ホテル協会事務局長 )  
 「ホスピタリティ・マネジメント講座」受講受付始まる ..... 5

シリーズ 韓国最前線 ..... 6  
 劉 亨淑

シリーズ 琉球便 ..... 7  
 曾山 毅

2006年度観光研究所活動報告 ..... 8

所長の海外体験記 その4 ..... 8  
 小沢 健市



立教からの挑戦 RIKKYO UNIVERSITY

発行:立教大学観光研究所  
 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1  
 TEL.03-3985-2577 FAX.03-3985-0279  
 E-mail : kanken@grp.rikkyo.ne.jp  
 URL : http://www.rikkyo.ne.jp/grp/kanken/

## ～東日本旅客鉄道株式会社のホテル事業について聞く～

常務取締役  
 事業創造本部副本部長 新井 良亮 氏



新井 良亮氏

あらい・よしあき 1946年生まれ。1966年日本国有鉄道入社。1987年東日本旅客鉄道株式会社入社。人事部人事課を経て東京地域本社事業部長、東京支社事業部長を歴任し2000年から取締役・事業創造本部担当部長。2002年より現職。株式会社JR東日本ウォータービジネス代表取締役社長でもある。

- 8 Q A
- 1.好きな言葉  
「努力に勝る天才なし」。周りには天才・偉才といわれる人が沢山おりますが、自分は自分として愚直に努力し磨いていくなりたいと思います。また努力することは挑戦することに繋がります。結果は後からついてきます。
  - 2.至福のとき  
田舎(日光の近く)に帰って渓流釣りをしている時。新緑の時期の早朝、すべてを忘れて自然の中にたたずみ、釣り糸を垂れている時がまさに至福の時です。
  - 3.今までの仕事の中で思い出深いこと  
旧国鉄入社当時、約2年半SL機関車(足尾線・現わたらせ渓谷鐵道)の石炭を積み上げる仕事をしたことや、国鉄末期の人事課係長時代、駅の合理化の直後、社員の配転・転勤の人事発令に従事したこと。そして不眠不休で頑張った国鉄改革などです。一度会社を潰しているの、二度と潰したくないという思いが強くあります。
  - 4.生まれ変わっても今の仕事を選びますか?  
まだまだ現役なので、生まれ変わった時の事をゆとりをもって考えられる心境・状況にまだないという感じがですね。敢えて言うなら教員にはなりたいかなあ。人を育てるということには魅力を感じます。
  - 5.最近、社長が関心を持っていらっしゃる事  
世の中の移ろいが激しいということ。ビジネスが大変やりにあるという一面、リーダーや取り巻く人達によっていかようにもなってしまうと思っています。また女性の潜在能力、力強さ、エネルギーのパワーアップを感じます。マーケティングは女性を抜きには考えられません。
  - 6.健康法  
その都度、気分の切りかえをしていくこと。週末には10kmぐらい歩いています。
  - 7.趣味  
野球・ゴルフ・魚釣り
  - 8.尊敬する人  
あまり考えたことないですけど、折々に出会った方々を師匠だと思ひ、必死に学ぶという姿勢や態度が大切だと思います。これまで多くの人に育てられましたので、大変感謝しています。

東日本旅客鉄道株式会社(以下、JR東日本)は鉄道事業の他に、生活サービス事業として不動産事業、広告・宣伝事業やホテル事業など、幅広い事業を展開している。今回の『観光研究所だより』では、話題のエキナカのショッピング街“エキキュート”など多くのプロジェクトに携わってこられたJR東日本常務取締役・事業創造本部副本部長の新井良亮氏にJR東日本のホテル事業の最新情報を伺った。

### ■5月24日にオープンするホテルメトロポリタン丸の内の特徴をお聞かせ下さい。

まず、ホテルメトロポリタン丸の内が国際都市・東京にあり、目の前が東京駅だという点です。

東京駅は国際都市の中心をなすとともに鉄道交通の結節点であり、そして近くには官庁や各企業がたくさん集中しており、情報の集積地としての重要な役割を果たしているため、今まで様々な課題があり開発ができませんでした。しかし、東京駅周辺を整備し、再開発をし、活性化を進めていくことは、JR東日本にとっても国や周辺の各企業にとっても東京駅や周辺地区の持つポテンシャルや価値の最大化が図れることです。そこに最大の投資をして再開発していくことは、多様なものを新たに提供していくことが可能になると考え、「Tokyo Station City」<sup>1)</sup>開発プロジェクトを進めました。第一弾として「知の集積」というコンセプトのもと「サピアタワー」<sup>2)</sup>と称するビルを建設しました。そのビルは、オフィス、コンファレンスルーム、ホテル、大学などに入居していただく複合施設にしたことに重要な意味があります。と言いますのは、駅として情報を発信することは、より多くの人達のニーズに応えられる、また、建物としても機能や役割のほか大きな付加価値を有することができると考えたわけです。また、外資系のホテルが東京の中心部に次々と進出していますが、鉄道に付帯するホテルは、立地特性や顧客のニーズの視点を考慮すると非常に重要だと思いました。東京駅から至近距離にあるということで次の行動が容易になり、スピードが求められる現代社会においては

ビジネスを視野に入れたホテルであるといえます。また、ホテルはサピアタワーの高層階にあるため、夜の帳が降りたあとに、鉄道の好きな人やビジネスマン、OL、旅行者にとっても皇居やオフィス街、鉄道の電車や新幹線が走る様子や東京の街が一望できるのは、大変素晴らしく至福のときかもしれません。部屋に入って、鉄道やオフィスで働く人を見ながらさまざまな想像を働かせホテル滞在を満喫していただけたらと思います。

ホテルメトロポリタン丸の内では、宴会部門を持たず、サピアタワーのコンファレンスルームはグループ会社のJR東日本ビルディングの運営とします。しかし、そこでの飲食提供はホテルが受け持つこととしています。

註1) Tokyo Station City: JR東日本が進めている東京駅再開発プロジェクト。東京駅八重洲口、日本橋口の開発計画と丸の内側の赤レンガ駅舎の保存・復原などを中心にした東京大規模整備計画。

註2) サピアタワー: Tokyo Station Cityの第一弾として3月に完成した東京駅日本橋口の高層ビル。入居するテナントは国内外の大手企業、京都大学などの研究教育機関、クリニックなど。ホテルメトロポリタン丸の内は高層部27階から34階、客室数は343室で2007年5月24日オープン。

## ■現在ホテルメトロポリタンや首都圏のホテルメッツを経営する日本ホテル株式会社の滑り出しはいかがですか？

JR東日本の首都圏のホテル部門の経営については、今年4月から日本ホテル株式会社が一括して全体的に経営と運営を見ていくことになりました(表1)。また、総支配人制度をとり、各ホテルの運営はそれぞれに任せていますので、順調に経営は行われていると思っています。経営を一括したことにより、統一的な販促体制がとれ、意思決定がスムーズになったうえ、また資金力が潤沢になったことで、リニューアルのスピードがタイムリーになりました。そして、お客様のニーズにもより応えられるようになりました。社員にとっても非常にわかりやすくなっただろうと思っています。

しかし、この組織運営体制は未来永劫続くのではなく、今後その時代、すなわち市場に基づく組織体制にしていくことが重要であると考えています。マーケットや市場を離れて存在しないからです。

## ■東京駅保存・復原工事の進捗状況は?また、駅舎内のホテル<sup>3)</sup>についての考えは?

ようやく工事がこの5月末から始まりました。耐震補強をしながら創建当時の3階建てや外観にしますから長い期間を要する工事になります。多くの制約条件がありますが、古い建物の良さを活かしながら国際都市・東京にふさわしいホテルを作りたいと思っています。また、近くに皇居やオフィスがあるので、とても景観がいいですし、周辺との統一性や調和をとりつつ観光・レジャー層にもトップビジネスマンにも満足いただけるホテルを目指しています。東京駅の利便性、鉄道が近くにあるという強味や競争の優位性をコンセプトの中で作ってあげたいと思っています。皇居側と線路に面した側では格差ができてしまうので、多くの宿泊客に満足していただくためには、相当な創意、工夫をして多くの課題を解決していかなければなりません。

註3) 東京ステーションホテル: 東京駅・赤レンガ駅舎の中にある、東京を代表するクラシックホテル。創建は大正4年。部屋数は58と小規模だが、多くの常連客に愛された。東京駅保存・復原工事に伴い、2006年3月末で営業休止。工事終了後、客室数約150室、レストラン、宴会場併設のホテルとして営業再開予定。東京ステーションホテルには松本清張など多くの作家が宿泊して執筆活動をした。他に川端康成(朝日新聞連載小説「女であること」、江戸川乱歩「怪人20面相」、森瑤子「ホテル・ストーリー」、夏樹静子「東京駅で消えた」などでホテルが取り上げられている。

## ■3月6日にオープンしたホテルメッツ高円寺には杉並区役所高円寺駅前事務所<sup>4)</sup>が開設されています。このような新しい発想は大変興味深いですが・・・

平成9年に私がJR東日本東京支社事業部長をしていたとき、地域のポテンシャルがありながら、なぜ中央線沿線の開発ができないのかと若い社員と駅やその周辺を視察、調査に回ってマーケット調査をしたことがありました。これまでJR東日本は開発をすると地域との軋轢が出たり、商店などが倒産する状態が生ずる恐れがあるなどと言われてきました。JR東日本と、地域や地元が連携し協調しながら一体となって開発を進めなければいけません。

ホテルだけを作るのではなく、駐輪場の整備、階段・通路の拡張やバリアフリーへの対応を織り交ぜながら、また地域の店と違ったテナントに入ってもらうことによって、より駅とその周辺地域の付加価値を高めることができると考えました。もう一つは、区側と京王線に接続するバスが停車できる場所をわが社が提供することで行政側と協力体制を作って開発を進めたことも大きな要素です。当時は阿佐ヶ谷、高円寺が駅の顔作りをして、駅の存在価値を高める開発の中でホテルメッツを建てることにも繋がりました。本社、ホテルメッツを運営するグループ会社と東京支社とが連携して、周辺の状況、商業圏を的確に把握し調査していくことがいかに重要であるかと認識した次第です。

オープン後の営業は順調で、当初の計画以上の結果を達成しています。駅やその周辺の利便性や快適性も飛躍的に向上したと思っています。我々の考えていたことは間違っていないかと思っています。

註4) 杉並区役所高円寺駅前事務所: ホテルメッツ高円寺3階に2007年5月14日に開設。開所時間は月～金8:30～19:00土曜日、第1・第3日曜8:30～17:00図書サービスコーナーも開設。

〈表1〉日本ホテル株式会社の経営するホテル一覧 ( )内は部屋数

メトロポリタンホテルズ	
ホテルメトロポリタン池袋 (815室)	
ホテルメトロポリタンエンドモント (665室)	
ホテルメトロポリタン丸の内 (343室)	
東京ステーションホテル (150室予定)	
ホテルメッツ	
ホテルメッツ渋谷 (191室)	ホテルメッツ目白(95室)
ホテルメッツ高円寺 (110室)	ホテルメッツ武蔵境 (92室)
ホテルメッツ国分寺 (74室)	ホテルメッツ久米川 (42室)
ホテルメッツ赤羽 (120室)	ホテルメッツ浦和 (62室)
ホテルメッツ川崎 (151室)	ホテルメッツ溝ノ口 (100室)
ホテルメッツかまくら大船 (117室)	ホテルメッツ津田沼 (81室)

## ■ホテルメッツの今後の課題

ホテルメッツの需要は沢山ありますし、首都圏に集中していく状況を見るとメッツの機能、役割を大切にしつつ、ホテルメッツというブランドを徹底していく必要を感じています。スピードをつけて地域へのシナジー効果を期待したいと思います。ホテル事業を通じて、地域にどれだけ貢献できるのかを考え、鉄道としてのキャリア、特性を生かして地域の活性化に繋げるという役割を担っていきたくと思っています。ホテルメッツが出来ることでお客様の利便性の向上と地域全体のポテンシャルを上げる役割が可能になると思っています。そのために地域と共生、共創しながら、取り組んでいく必要があります。

## ■JR東日本の幅広い事業展開は学生にとって大変魅力的だと思います。学生への就職先の選択や求める人材等についてのアドバイスをお願いします。

学生に対しては、ビジネスをやりたいのか、又は自分の成長を求めるのか、どの視点を選択するかによって就職先は全く違ってしまふという事です。自分がこういうことをやりたいからこの企業を選ぶのか、つまりは、人生の中で大半を企業社会の中で過ごすのですから、自分の目指す目的をしっかり持つことです。その目的達成のため挑戦し続けることではないかと思っています。そこは明確にして欲しいですね。

また、例えば観光学部で学んでいるとはいえ、旅行業をやりたいとか鉄道事業をやりたい、ホテルをやりたいとかだけでなく、何を得意分野とし専門性を身につけていくか、さらには志を高くして自らを磨いていく事が大切です。

ビジネスに身を置く限りは、現地に行って現物を観察してください。興味を持てば、さらに違ってきます。新たな発見や発想に繋がります。字面を見て頭に入れることとは全く違うのです。観察から自ずと多くのヒントや答えが必ず導き出され、自分なりの価値観・尺度ができると思います。

今の学生は豊かな時代と環境に育ってきていますが、企業人としては順調なときばかりではありません。大変な状況に遭遇した際、自分がどういう立場に身を置けば良いか、どのようなポジションをとるかによってその人の価値・品格・人生観などが分かります。企業が求めているのは、ありきたりの知識や物知りではなく、また机上で物事を考える人材を求めているわけでもありません。学歴では生きていけない。22歳の知識や学歴で定年まで生きられるほど世の中、甘くないです。

大学生活と言うのは、サラリーマンでいうと23歳～65歳までの生き方・将来の可能性を考える4年間であるのではないかと思います。

面接においては、その人の人間像は15分で充分わかります。自らの可能性に真摯に対峙し、やりたい事を持っている人は、「目」が違います。生きています。それを私は「まなこ」と言うのですが、言いたいことは目に出ますね。「まなこ」が多くのことを物語っています。

しかし今現在、私が合格だと言った人は、考えようではもう成長しきった人かもしれない。ですからリクルーター(採用担当者)

には、企業が順調な安定時のときではなく、会社が傾いた時や危機的状況に立ち至った時、逃げずに積極的に取り組む人を見極めるかが大切と話をしています。

リクルーターも自分が決めた以上どういう視点で選んだのか、何が素晴らしいのかを説得できなくてはいけません。採用に係わるということは、その人の一生を決めていくことになるので、大変重要なのです。

また、一大事(緊急の事態)においては、マニュアルでは対処しきれません。机に向かって優秀な人が実際の場面では役に立たなかつたりするので、企業は知識だけでは通用しない。総合力が必要になってくるわけです。

最近、胸襟を開いて相手を説得しようという思いを持つ人が余りいなくなっています。企業の危機的状況や職場においてトラブルが生じた場合に、評論家や第三者的な立場になって立ちすくんでしまう人を見かけることがあります。そういう時にこそ積極的になれる人を企業も社会も求めているのです。それができる人は大変輝いていますし、存在感があります。大変ですが・・・。

これからのグローバル社会は、海国なき航海に出て行くのに等しいと思います。先人達がやってきたビジネスモデルを、単に踏襲するだけでは、企業は成長も発展もできない時代になっています。高齢化・少子化等といった多くの問題を抱える現代で、我々は高度成長の頃とまったく違った社会に生きています。だからさまざまな意味での新しい事をやり遂げ、挑戦し続けなければいけないし、積極的に取り組んでいく必要があります。その時に自分の生きざま、志、情熱をしっかり持つことができれば、これまでのビジネスや社会を乗り越え、企業人としての成長や企業としての発展、さらには新しい社会の創造や貢献に参画することができるのではないのでしょうか。

## ■本日はありがとうございました。

(インタビュー:2007年5月15日)



サピアタワーの外観

# RETROSPECT!

## Vol.7

社団法人日本ホテル協会  
事務局長  
**満野 順一郎**

4

立教大学に入学したのは昭和41年、満開の桜のもと、正門から4丁目周辺あたりまでの各クラブの入会勧誘が凄かったのが印象に残っている。或るきっかけで服飾デザイン研究会(服研)に入会することになった。服研とはいっても当時の大学生の服装は未だ学生服が多く、現在のキャンパスの風景とは全く違っていた。しかし、当時の立教の服研はキャプテンの前原弘一氏を中心に、石津謙介氏、星野醍醐郎氏といった当時のメンズ服飾界のリーダーの方々からの支援をいただき、「全日本学生服飾連盟」の結成を働きかけるなど、業界からも注目を浴びる華々しい活躍をしていた。

学内でも、立教祭では「ホテル研究会」が喫茶サービスをしていた第一学食でステージを設けてファッションショーを行っていた。今、想うとこの時に既にホテル業と見えない糸で結ばれていたのかもしれない。ホテルではドレスコードや身だしなみにおいて服装・服飾の知識は必要不可欠であり、レベルの高いホテルサービスにおいてはますます重要となっている。服研での4年間はホテルの仕事に就いてから役に立つ結果になったと思っている。

昭和45年4月、(株)日比谷会館に就職した。ホテル業界には立教OBが多いこともあってか、同社の前身である旧同盟通信社が所有していた蓼科高原の湖畔に昭和42年開業した70室のリゾートホテル「ホテルピラ蓼科」の総務課に配属された。ホテルのGMは旧海軍兵学校出身で前職は阪急交通社の海外担当営業課長、総務・経理課長は本社の若手、そして料飲支配人は都内の大手ホテルのVIP担当、レストラン・キッチン・ルームにはそれぞれ都内大手ホテルからと、当時の新設リゾートとしては優秀で個性的なスタッフが揃っていたと思う。平日の昼間は総務・経理として、朝夕・週末は現場で実務を学ぶことになった。特に朝夕、各現場の方々と一緒に仕事をした経験は現在も大きく役立っている。また、年齢的に学生に近いということで、夏季・冬季期間、大学や短大の実習生も担当した。現在も

ホテルをはじめ観光業界に就職した方々とはお付き合いが続いている。そして、特に夏季のお客は上場会社の役員や個人事業主の家族、音楽家等を中心に1週間以上の滞在が殆どであり、お客様からも多くを学ばせていただいた。冬季やオフには米国企業のセミナーや外交官の利用が多かったため、特に朝食の卵料理のオーダーテークが辛かったのも今では楽しい思い出である。

ホテル現場への配属が決まった時点で、蒲生先生の「ホテル管理会計」など専門書には目を通していたが、現場での体験を積むうちに、体系的にホテルマネジメントを学んでおく必要があると考えるようになった。若手ホテルマンではとても話など出来ないようなホテル業界の最先端で活躍しておられる講師陣から生の講義を受けられる「ホテル・観光講座」は大変な魅力であり、“東京に戻った時には受講を”と心に決めていた。幸いにも約2年間の現場経験後本社に戻ることとなり、昭和47年度の「ホテル・マネジメントコース」を受講することとなった。

東京では、今度は営業ということで昼間の仕事を中心であり、都内・京浜地区、名古屋、京阪神の大手企業、セミナー企画会社、研究所、外人旅行関係、航空会社、大使館等を対象にセールス活動の傍ら講座に通うことになった。外回りの後、座って講義を聴く授業中は眠くて仕方なかったが、どういふ訳か重要なポイントの部分になるとキチンと聞こえていた。しかし、京王プラザホテル料飲部長であった倍井経彦先生の「食堂管理」ではウトウトしている最中に材料原価率に関する質問があり、トボけた回答をして周囲の失笑を買ったが、授業のあと、倍井先生はGMの旧海軍兵学校での後輩であったとのことと当時高価だった輸入ウイスキーを目覚ましにとご馳走になり、励ましていただいた思い出が今も鮮やかに残っている。



当時のパンフレット

満野 順一郎(みつの じゅんいちろう)  
1970年立教大学経済学部卒業、同年株式会社日比谷会館に入社。1973年立教大学観光研究所「ホテル・観光講座」修了。社団法人国際交流サービス協会、株式会社ホテルピラ蓼科を経て1987年社団法人日本ホテル協会入社、2000年より同事務局長。

## 「ホスピタリティ・マネジメント講座」受講受付始まる

2007年度「ホスピタリティ・マネジメント講座」の受講申込受付が7月3日(火)から始まりました。本学の在学学生・卒業生はもとより、高校卒業以上の資格をお持ちの方ならどなたでも受講できます。専門的な内容をどなたにも理解できるように授業を組み立て

ました。希望者には詳しいパンフレットをお送りいたします。問い合わせは立教大学観光研究所まで。

受講申込受付は7月24日(火)まで

立教大学観光研究所 (Tel : 03-3985-2577 Fax : 03-3985-0279 E-mail : kanken@grp.rikkyo.ne.jp)

月	日	曜日	科目		講師	
			科目	講師	科目	講師
9月	18	火	オリエンテーション	立教大学観光学部教授・観光研究所所長	小沢 健市氏	
	20	木	リゾート事業の現状と展望	株式会社星野リゾート 代表取締役社長	星野 佳路氏	
	22	土	ホテルマーケティング戦略	ホテルパシフィック東京 常務取締役副総支配人	玉井 和博氏	
	25	火	現代ホテル経営の課題	ロイヤルパークホテル 取締役会長、社団法人日本ホテル協会会長	中村 裕氏	
	27	木	ホテルのファシリティ・マネジメント	芝パークホテル 取締役会長	石原 直氏	
	29	土	温泉旅館の再生	株式会社 ツーリズムマーケティング研究所 主任研究員	井門 隆夫氏	
10月	2	火	ホテルの顧客情報とISO	芝パークホテル 取締役会長	石原 直氏	
	4	木	購買管理とFBC	芝パークホテル 取締役会長	石原 直氏	
	6	土	旅館経営の課題と展望	社団法人国際観光旅館連盟 会長	佐藤 義正氏	
	11	木	ホテル事業展開論	ホテルオークラ 代表取締役社長	松井 幹雄氏	
	13	土	外資系ホテルの経営戦略	(株)阪神ホテルシステムズ ザ・リッツ・カールトン大阪 代表取締役社長	飯塚 義昭氏	
	16	火	国際ホテル経営論	日本ハイアット株式会社 取締役開発本部長	中田 昭男氏	
	18	木	サービス・マーケティングの発想	明治大学 大学院グローバル・ビジネス研究科教授	近藤 隆雄氏	
	20	土	ホテルにおけるコンピューターシステム	(株)タップ 代表取締役社長	林 悦男氏	
	23	火	旅館の接客訓練	オフィスヴァルト代表 サービスコンサルタント	福島 規子氏	
	25	木	ホテルの人的資源管理論①	(株)阪急ホテルマネジメント 執行役員 第一ホテル東京シーフォート 総支配人	黒沢 直樹氏	
	27	土	ホテルの人的資源管理論②	(株)阪急ホテルマネジメント 執行役員 第一ホテル東京シーフォート 総支配人	黒沢 直樹氏	
	30	火	ホテル管理会計～その功罪を考える	(株)グローバルマネジメントディレクションズ ホスピタリティグループディレクター	後藤 克洋氏	
11月	8	木	ホテル資産投資の概要	ジョーンズラングラスールホテルズ東京オフィス エグゼクティブ・ヴァイス・プレジデント	沢柳 知彦氏	
	10	土	ホテルのレバニュー・マネジメント	(株)JALホテルズ 営業本部副本部長	藤崎 齊氏	
	15	木	ホテル旅館法規①	風間・畑法律事務所 弁護士	畑 敬氏	
	20	火	ホテル旅館法規②	風間・畑法律事務所 弁護士	畑 敬氏	
	22	木	外食産業の経営システム	立教大学大学院ビジネスデザイン研究科特任教授	王 利彰氏	
	24	土	外食産業の新業態	立教大学大学院ビジネスデザイン研究科特任教授	王 利彰氏	
	27	火	宿泊特化型ホテルのビジネスモデル	流通科学大学名誉教授	作古 貞義氏	
	29	木	シティホテルにおける宴会会のマーケティング	帝国ホテル 営業部宴会サービス課長	風間 淳氏	
12月	1	土	シティホテルにおけるレストランマーケティング	ホテルパシフィック東京 常務取締役副総支配人	玉井 和博氏	
	4	火	ホテルの新業態と開発	東日本旅客鉄道(株)事業創造本部ホテル・メディア事業推進部門 課長	大見山俊雄氏	
	6	木	由布院の観光地づくりと旅館経営	由布院 玉の湯 代表取締役社長	桑野 和泉氏	
	8	土	ホテルの社会的責任	社団法人日本ホテル協会 事務局長	満野順一郎氏	
	11	火	総支配人の職務	前フォーシーズンズホテル椿山荘 東京 総支配人	塩島 賢次氏	
	13	木	ホスピタリティ産業の環境経営	川村学園女子大学人間文化学部観光文化学科専任講師	丹治 朋子氏	
	15	土	ホテル経営とデザイン	株式会社デザインの森 代表取締役	森 一朗氏	
	18	火	ホスピタリティ産業の課題と展望	帝京大学経済学部観光経営学科教授	岡本 伸之氏	

5

シリーズ

# 韓国最前線 ~その六~

東義大学校商経大学ホテル・コンベンション経営学科助教授  
劉 亨淑

大韓民国祝祭博覧会  
Korea Festival Exhibition

地域の祝祭の広報活動として“祝祭の祭り”である大韓民国祝祭博覧会が、今年2回目を迎え、5月2日から6日まで韓国の釜山広域市のBEXCO (Busan Exhibition & Convention Center) で開催された。博覧会は国内を代表する76の祝祭をはじめ、3つの海外の祭りが参加し500ほどのブースが展示され、26万人の観客が訪れたと報道された(うち外国人観客542人)。昨年の31万人に比べると、客数は減ってはいるが大会期間が10日間から5日間に短くなっているため、一日当たりの訪問客は、かえって80%以上増加していると組織委員会は受けとめている。

全国の有名な祭りをひとつの場所で見て体験することができる大韓民国祝祭博覧会は“文化が競争力”というタイトルで昨年4月、韓国各地の祭り、講演、代表的な食べ物などが体験できる博覧会として始まり、今年は“祝祭で一つになる大韓民国”をタイトルとして観客が多様な祭りを直接体験できる体験館と特別展示館、民俗遊び体験場、講演行事、セミナーで成り立っていた。

昨年同様、私も大学のフィールド授業の一環として学生達と一緒にこの博覧会を観覧した。参加している地方自治体のブースの内容はより成熟し、昨年より多様な体験が出来、中央舞台で様々な講演行事も開催され、楽しむことが出来た。しかし、博覧会期間が他の地域の主な祝祭と重なり、いくつかのメジャーな祝祭が見られなかったことや、ある地方自治体が参加していないこともあって大韓民国祝祭博覧会としての名称に少しそぐわない様な気がした。昨年は全国112の地方自治体が参加したが、博覧会への参加・投資費用よりも広報効果が薄いため、今年は30%減の76の祝祭が参加するにとどまったと関係者は言っている。



BEXCOの入口看板

日本は祭りの国ともいわれているが、いつの間にか韓国もさまざまな祭りが行われるようになった。

1995年韓国で初めて地方自治体が地域祝祭を実施して以来、韓国全体にも広がり、2006年文化観光部の調べでは全国で726も開催された。また、文化観光部は外国人観光客の誘致拡大及び地域観光活性化のために、1995年から継続的に観光商品性の高い53の祝祭を“文化観光祝祭”として選定している。

私が住んでいる釜山広域市には地域祝祭が66(2007年、社団法人釜山文化観光祝祭組織委員会の報告)ある。いつの頃から始まったのか分からない昔からの“豊漁祭”など1995年ぐらいまでは10程度であったが、2000年には40、2005年には62の祝祭が開催されるようになった。それは地域住民には地域の存在確認と愛郷心を呼び起こさせてくれるし、また他の地域訪問客にはその地域の文化を認識させてくれる重要な媒体的な役割を担う。しかし一年中、祝祭を行っている訳にはいかないし、春と秋に開催時期が重なることや、予算はどこからでてくるのかなど、地域の特徴なしで大同小異である祝祭を継続的に維持するべきであるのかなどいくつかの疑問が起こってくる。

実は、私ごとながら今年、社団法人釜山文化観光祝祭組織委員会から釜山地域祝祭評価委員に委嘱され、いくつかの祝祭を評価しながらこのような現状に悩んでいる状況である、、、。



博覧会のポスター

註1) 釜山展示コンベンションセンターといひ、延面積92,761m2、地下1層、地上7層規模で建設された国際規模の展示・コンベンションセンターとして2001年開館した国際会議施設業の一つ。室内8千坪と野外4千坪など1万2千坪の展示場が使える。

劉 亨淑(ゆう ひょんすく)

韓国・東亜大学校自然科学大学物理学科卒業。立教大学大学院観光学研究科博士課程後期課程修了 観光学博士。2002年4月～2003年3月立教大学観光学部助手。2003年4月～2004年3月立教大学観光学研究所学術研究員。2004年3月～2006年2月韓国・東明情報大学校ホテル経営学科専任講師を経て2006年3月より東義大学校商経大学ホテル・コンベンション経営学科専任講師。2007年3月から助教授。

シリーズ

# 琉球便 ~第七報~

九州産業大学商学部観光産業学科准教授  
曾山 毅

## 沖縄での生活を終えて

実はこの4月から福岡市内の大学に移りました。そこで今回は沖縄からの報告は最終回になります。沖縄での3年間を福岡から振り返りながら書いてみたいと思います。

沖縄から福岡に移ってきてまず感じるのは、福岡は紛れもない沖縄でいうところの「ヤマト」の一部だということです。福岡で生活していると、否応なく視界に飛び込んでくる街並みや建物のデザインに、本土共通の意匠が見て取れます。福岡市内で見るマンションに九州固有の趣味を探すことは難しいように思えます。ところが、沖縄の建物には本土とは明らかに違う「沖縄のデザイン」がかなり強烈に表現されているものが少なくありません。赤瓦屋根の伝統的な木造住宅は少なくなりましたが、戦後はそれに替わってそこかしこにコンクリート製の住宅が増えました。台風とシロアリを防ぐ点で木造家屋にまさり、米軍基地の影響も

あって広く取り入れられた形式です。本土にもコンクリート製の住宅はありますが、沖縄のものはかなり雰囲気が異なります。近似したデザインはかえって台湾の田園地帯に多いくらいです。マンションについても、外壁にタイルを多用した本土での流行とは明らかに異なる、グリーンやオレンジ色などの塗装を外壁の一部やベランダに施した「南国的」なデザインが比較的多く見られます。

時間についても沖縄には独特な時間感覚、「沖縄タイム」があるといわれます。ゼミの学生と飲み会をすると開始時間を1時間過ぎてもメンバーが半分もそろわないということもありましたし、大学内の会議もなかなか定時には始まりません。ところが、名護市内で主催されたある委員会に出席した時のことです。会場に到着すると私以外の十数名の委員が全員すでに着席し会議の開始を待っています。私は遅刻したかと慌てましたが、時計を見ると会議開始時刻の5分前でした。ほとんどの委員が沖縄出身者だということがあとで分りました。沖縄の人々に対して、本土出身者が勝手に「沖縄タイム」を投影してしまうのは考えものようです。几帳面で時間をきちんと守る沖縄人は私の見るところ決して少数派ではありませんでした。本土の人間が「沖縄

タイム」を自分の都合で決め込むと、「だらしのない内地人」のレッテルを張られかねないのです。

沖縄で生活していると、「日本でいて日本でないような独特の印象」を抱かされることは確かで、「沖縄らしさ」という思い込みや先入観がその通りだったことも多かったのですが、裏切られることも少なくありませんでした。ところが、内地人の気持ちが日本と沖縄の間で揺れ動くのを尻目に、沖縄の人たちは「沖縄であること」に対して強い自負心を抱いています。それが各所で再生産されているように感じます。県内で放映されるローカルのテレビコマーシャルには沖縄の要素がふんだんに出てきます。他県の人々に沖縄イメージを訴求しているのならわかりますが、沖縄の人たちに対してですからこれはちょっと驚きです。大学では推薦入試やAO入試の面接を行います、受験生の二人に一人



沖縄の伝統的な住宅

は沖縄が大好きだということを目指動機に結び付けます。そして沖縄を愛する理由にはほぼ全員が豊かな沖縄の自然を一番に挙げるという判で押したような反応には正直言って食傷気味になります。現実の沖縄はさまざまな意味で日本の一部であると同時に、そこは沖縄以外の何物でもないことを、思い入れや先入観にとら

われず、しなやかに受け入れることが沖縄人にも内地人にも必要なのかもしれません。しかし、一度沖縄人の「思い入れ」をかわそうとして申し訳ないことをしました。沖縄に赴任して半年ほどたった時の話です。ある慰労会で同僚のやんばる出身の教員にオリオンビールの感想を求められた私は、相手が賛辞を期待しているのを十二分に知りながら、つい「ビールはどこでも同じです」と、はぐらかしてしまいました。その先生のがっかりした表情を今でも忘れられません。

曾山 毅(そやま たけし)

慶應義塾大学経済学部卒、立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士課程後期課程退学 観光学博士。1998年4月～2002年3月立教大学観光学部助手、2002年4月～2004年3月立教大学観光学研究所学術研究員、2004年4月～2007年3月名桜大学国際学部観光産業学科助教授を経て2007年4月より九州産業大学商学部観光産業学科准教授。